

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Association of serum n-3 polyunsaturated fatty acids with psychological distress in the second and third trimesters of pregnancy: Adjunct Study of Japan Environment and Children's Study

和文タイトル: 妊娠中後期における抑うつ症状と血清n-3系多価不飽和脂肪酸に関するケース・コントロール研究

ユニットセンター(UC)等名: 富山UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Prostaglandins, Leukotrienes and Essential Fatty Acids 巻: 114 頁: 21-27 年: 2016 月: 10

筆頭著者名: 浜崎 景

所属UC名: 富山UC

目的:

妊娠期間中は多量のn-3系多価不飽和脂肪酸(PUFA)が胎児形成に必要とされており、n-3系PUFAの不足が抑うつ症状出現の1つの原因とも言われていますが、妊娠中後期における調査ではその結果が一致していません。そこで今回、妊娠中後期の抑うつ症状と血清n-3系PUFAとの関連を調査しました。

方法:

抑うつ尺度としてはKessler 6を使用し、13点以上を抑うつ“有り”としました(n=71)。さらに13点未満で、年齢・最終学歴・世帯収入でマッチさせた142名を対照群として解析を行いました。血清脂肪酸はガスクロマトグラフィーにて測定し、それぞれの血清脂肪酸組成で「少ない」・「中程度」・「多い」の3つのグループに分け、「少ない」群と比較してほかのグループでの抑うつ症状のなりやすさを検討しました。

結果:

対照群(抑うつ症状無し群)と抑うつ症状有り群で、個々の血清n-3系PUFA(エイコサペンタエン酸・ドコサペンタエン酸・ドコサヘキサエン酸(DHA)など)を比較しましたが、特に有意差は認められませんでした。また様々な因子で調整した結果においても、個々の血清n-3系PUFAは抑うつとのなりやすさと特に関連は認められませんでした。

考察:(研究の限界を含める)

今回の妊娠中後期で関連が認められなかった理由として、胎児形成におけるn-3系PUFAの需要が出産に近づくにつれて高まることが知られており、採血時期のばらつき(21.7~34.7週)などが影響した可能性が考えられました。また、女性ホルモンが妊娠期間中に100~1,000倍になることが知られており、さらにこれらのホルモンが α リノレン酸からDHAの代謝を促進することによる変化が影響した可能性も考えられました。研究の限界としては、横断研究なので因果関係まではわかりません。また、魚介類摂取は一般的に健康的な食生活を反映しているため、調整しきれなかった因子があるかもしれません。

結論:

今回の結果より妊娠中後期では、個々の血清n-3系PUFAで抑うつとの関連は認められませんでした。今後は、産後など時期を変えて検討したいと思います。

